

# 中小企業診断士の視点

第74回  
SDGsを目指す健康経営



中小企業診断士 太田 一宏  
(一社)埼玉県中小企業診断協会

## 1. SDGsの8番目は「働きがいも経済成長も」

地球温暖化と関連して語られることが多いSDGsですが、17あるゴールの1つである目標8「働きがいも経済成長も」があります。経済成長の担い手は、言うまでもなく個々の企業であり、企業の成長が期待されています。

企業成長のエンジンは健康な従業員です。主要な経営資源としてヒト、モノ、カネ、情報が挙げられるように、従業員は貴重な経営資源と考えられます。成長のよき担い手であるためには、従業員の健康は欠かせぬ要素であり、健康経営とは従業員管理を戦略的に実践する経営手法です。

従業員の健康管理に対する支出については、経費としてとらえる見方が一般的かもしれませんが、健康経営では、この支出を健康投資と考えます。それが将来の収益を生み出してくれるものだからです。健康経営とはすなわち戦略投資なのです。

## 2. 健康経営に取り組むために

健康経営として多くの企業に取り組んでいることは、①健診受診促進ポスター掲示、②ウォーキング推進、③食生活改善キャンペーン実施、などが一例です。企業によって事情が異なりますので、できることから始めるというのが成功への秘訣です。そのなかでも、スタートするうえで、欠かせないことが、経営者の決意と「健康宣言」です。健康宣言の例を挙げると、①100%健診を受診します、②法令を順守します、③食生活の改善に取り組みます、などがあります。

また、身体の健康に加え、職場を、やりがいをもって働いている状態にすることも健康経営のひとつです。①経営理念の共有、②モチベーションアップ、③コミュニケーションの活発化によって、いきいきと主体性をもって働ける職場を目指しましょう。

## 3. 推進体制を作ろう

従業員の中に健康経営の推進担当者を設けましょう。担当者を起点に、従業員の中へ健康経営の考えが浸透し始めます。しかしながら、推進担当者が優秀な方であっても、中小企業が単独でできることには限りがあるため、社外のリソースを積極的に利用しましょう。そのひとつが、「全国健康保険協会（協会けんぽ）」です。協会けんぽでは健康宣言事業を実施しており、そこに参加することで健康経営が進みます。

われわれ中小企業診断士も「社外リソース」のひとつです。中小企業診断士の中にも健康経営アドバイザーの資格を持っている者が数多くいます。健康経営アドバイザー資格を持つ中小企業診断士は、健康経営を経営戦略のひとつとして組み込み、支援をしていくことができます。

暮らしを支えるという意味では、企業も地球と似た役割を担っています。健康経営を取り入れて持続可能な企業を目指しましょう。

### 【問い合わせ先】

(一社) 埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：https://sai-smeca.com/

電話：048-762-3350

Eメール：rmcsai@nifty.com